

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 12月号 (NO56)

2014年12月10日(水) 発行(毎月10日)

【農暦】 夜なべで黒豆に最終選別を始めたい!

○12月になり急に寒さが厳しくなっている。日本海側を中心に平年より早い大雪になっている。世界規模で異常の大雪である。徳島では豪雪でライフラインが止まり孤立した中で高齢の女性が亡くなったとのニュースである。恒例の忘年会の予定が続き柏と笠間を歩き来している条件もあり日程が厳しい5日の忘年会の欠席届を出させて頂いた。人との関わりを大事にしたいとの考えや、中々会えない人との唯一の機会になる場合も多く参加を心掛けていたので、無理が出来ないのが少しだけ寂しい。黒豆の莢から取り出す収穫作業が、乾燥が上手く進まず遅れ遅れになっている。やろうと予定すると雨で、ハウスの中に移すなどしてやっと8日に行い9日には僅かな量であったがJAの機械を使い選別を終える事が出来た。

○畑や家の片付けや整理が出来ていないのにも思いつきながら誘われるままにボランティアの講座に参加し燻製作り、独居老人への弁当配達体験をさせて頂いた。清掃や整理が行きとどいた庭や家を垣間見させて頂いたが、大きな家に一人暮らしの寂しさが伝わって来た。少し先の我が身と考えると辛いものがある。また高齢でボランティアを続けておられる方々に頭が下がった。ボランティアのやり手が少ないとの話から団塊の世代の人はボランティアでなくゴルフに行く聞き、年齢だけでなく世代で行動に傾向が出るのかもしれない。

世代論ではないが団塊の世代は全共闘世代とも言われる。社会運動への関わり方で傷つき分裂している世代で、価値観の変革を起した世代でもある。この世代を一括りに論じるのは無理がある様に思えるが、ボランティアへの参加は少ないのかもしれない。世代で価値観の断絶がある様にも感じる。

○この世代に熱狂的に支持されたヒーローであった高倉健、菅原文太の訃報のニュースが続いた。高倉健さんは日本でもだが、中国で映画の交流があった人からも中国外務省からも哀悼の意が表される程に評価が高い。菅原文太さんには意外な？側面があった。最近のキナ臭い世情を心配し“反戦平和の大切さを唱えていた”と云う。また、山梨の横内知事からの誘いを受け、有機栽培の農業を北杜市で始めている。追悼の番組が続いているが、惜しまれる。



＜黒豆の乾燥＞雨で中々進まない乾燥。昨年と同じ風景が。15日撮影

○ペルーのリマで COP20 (=気候変動枠組条約第20回締約国会議)が開催されている。地球温暖化による異常気象も怖い、世の中が益々悪い方向に進みそうで怖い。今行われている衆議院選挙の結果も気になる。私の農的生活もいろいろ問題が多い。農業大事で、やれるだけの事をやろうと思っているが問題が多くなるばかりである。一休和尚ではないが“なるようにしかならない”のである。苦あれば楽ありである。忘年会の酒宴も悪くはないが、夜なべで黒豆の最終選別を始めたい。

【楽農】 キューイの収穫

<ハウス> ; トマトの片付け

<畑A> ; キューイの収穫、片付け

<畑B> ; 里芋の収穫、玉葱に植込み (赤、黄)

*黒豆の乾燥・選別 (JAの選別機で)、

*カボチャとキューイの出荷。



<水戸自然農収穫祭>古代米の餅つき。女の戦いではありません。やはり女性は素晴らしい。30日撮影

【楽市】 イベント交流・直売など

○その他 ; 農業まつり (15日) 男女共同参画フォーラム (22日) ボランティア講座 (28・8日) ピッコロファームの例会 (29・30日) 水戸自然農収穫祭 (30日) に参加など。OB会などの恒例の忘年会に。

*エコピア柏の笠間散策は天候と体調で中止。

【つぶやき=Tweet】菜根を咬み得ば、則ち百事做すべし!

○四十にして惑わずと云うが、未だ人生の迷走が続いている。“人生五十功無きを愧ず”は細川頼之の詩文の一部である。そもそも人生に功などと云う評価基準を持っていなかった。ひたすら走って来ただけの様な気がして寂しいものを感じる。魏武帝が「酒を呑むなら歌おうではないか・略・略・どうやって憂いを忘れようか。ただ杜康(酒)あるのみだ」と人生を儚んで歌っている。若い頃に貰った扇子に手書で書かれた漢詩である。三国志で有名な曹操のものであったと、姪の娘が調べてくれて判った。何十年も知らないで使っていた事になるが、漢字から何となく伝わるものがあつたが、私のいい加減な人生が知れてしまう。曹操が死んだあとで子供たちから魏武帝と称されたと云う。あの曹操がと思うが共感出来る。

○たまたまNHKの菜根譚を見た。諺的な文言に興味を持ち途中からだったが最後まで見てしまった。菜根譚とは“人、常に菜根を咬み得ば、則ち百事做すべし”の意である。著者は洪自誠で明の末期の人である。日本では江戸末期に和刻本が刊行され、明治から昭和にかけて読まれ吉川英治、田中角栄、川上哲治など多くのリーダーが座右の書としてい



<燻製作りに参加。中華鍋と餅網で、キッチンで作る事が出来る。美味だった。28日撮影

たと云う。処世訓の最高の傑作であると云われる。“逆境の過ごし方は力を蓄える時”で、“3年鳴かず飛ばず”は、“いざ飛び立つ時は大きく飛翔していく事“で悪い意味ではない。“自立×依存”では“自立は依存していないと錯覚している事”である。“障害は多数派の中にある少数派”等とテレビを見ながら走り書きのメモにあった。相田みつをの文言とは違うが、似たような心に元気を貰える文言が多い。悟りや諦めが出来ていない人生には、まだ必要な人生訓が多く含まれているようなのだが、何故かこの本を読む気が起こらない。

○先月号で“旬”の事を話題にしたが、最初に収穫したものを、初めてのものを指す“初物”と云う言葉がある。食べると滋養に良いと云われる。赤ちゃんの初乳は母親の免疫を受け継ぐ大事なものであると聞くが、意味は違うが、“非日常”と云う言葉もある。私の農的生活は特異ではあるが日常になっている。田舎暮らしを本当の意味で楽しむのはこれからなのかも知れない。

○都会の雑踏も好きである。むしろ雑踏の方が好きであるような気がする。砂上の楼閣という言い方もあるが、ネット社会にあって、「ブックオフ」には膨大な量の本が、それに匹敵する多勢の人で混雑している。忘年会に参加のついでに立ち寄った嘗て利用した店の光景である。田舎暮らしで不満なのは安易に飲める居酒屋が無い事と、一般興行ベースに乗った映画作品しか見られない事である。他にもあるが、田舎暮らしが”非日常”であった時には考えもしなかった不満である。都会的なものを嫌っても、農的生活を始める動機の一部であった事を考えれば当然の事である。

○最近では田舎暮らしは合わないのではと指摘される事がある。自分でも気が付き初めていたが、半分は当たっている。日曜大工も出来ない不器用な私は、残り半分の半分も田舎向きではない。なんでも自分でやる処に田舎暮らしの醍醐味があるのだから、不器用は致命的欠陥に近い。だが、残りの四分の一を大事に豊かなものに出来れば、全体を豊かに出来るのではと思うのである。それには農的生活の質を向上させなければと思っている。質が毎年下がっているので心配である。世情も、農的生活も”逆境”にあっては、読む気が起こらない菜根譚を読んで知恵と力を蓄えなくてはならないのかもしれない。いつもながら暗い話題で申し訳ない。

【後記】

一年の締めくくりは大事にしたいと思います。
笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜小原ひよとこ保存会＞農業祭りのステージで出演。快くカメラに応じて頂いたオカメとヒョトコ。15日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.ne.jp
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>